

露國哈薩克
の村長

半里の途
上三時間
を費す

地は濕地にして芨々草繁茂し、小河多く處々沼澤を爲せり。二道橋の北數町なる一河は、幅僅に七米突、深さ膝を没す、次で又一河あり、幅約二十米突、深さ前と同じ額、救河は街道一の大河と稱せられ、兩岸斷絶、幅約千米突、流水數條、流速皆急、内最も廣きは、水幅約三十米突、水深馬腹に及ぶ、大水時には交通を遮斷すること數日に至ると。

沿途哈薩克多く游牧し、又附近一帶に籍を露國に有する哈薩克約三百餘戸を認め、一家多きは十數人あり。是等全哈薩克を管する爲め、在塔爾巴哈臺露國領事配下の「アクサハル」(郷約に)一名茲に住す。其他土着人には纏頭二十家、漢人十家、漢回五十家あり。氣候は六月の半ば後、最も暑く、十二月最も寒し、雨は年中概ね降ることなしと云ふ。

十四日行程約十里、官店即ち干吉爾莫多臺(或は、額爾屯)に着す。人家僅に四戸、其東約半里の間、泥濘深く車を没し、進退谷まるもの數次、爲めに三時間餘を費せり。要するに道路の初半は好良なるも後半は濕地能く走るべからず。中間は芨々茂生して、哈薩克の游牧多し。